

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するための進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。授業も含め、教育産業の学習動画を活用する取組みを充実させる。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。3年間を通じた系統的な取り組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。

(8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和5年には20名合格を目標とする。（H30 19名、R1 8名、R2 17名）

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（H30 59.2% R1 62.4% R2 60.5%）を向上させ、令和5年度には70%をめざす。

(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。

2. 人間力をつけること、規律、安全安心について

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。

(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(5) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 年間延べ遅刻者数（H30 3,639人 R1 2,539人 R2 2,093人）を減らし、令和5年度には、延べ1,800人以下をめざす。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の期間との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（H30 62.0% R1 68.2% R2 -）を増やし、令和5年度には、70%をめざす。

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に取り組む学校教育自己診断に肯定的評価（H30 82.4% R1 84.3% R2 -）を増やし、令和5年度には、85%をめざす。

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 分掌に位置付けられない組織「SPT (Sakura Project Team)」の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、学力アップを図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) タブレットを活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。</p> <p>(2) GSC の授業で、大学から講師を招聘し、Speaking 力の向上をめざす。全学年でリスニングテストを実施する。 英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び5:30以降の講習「桜塾」を継続発展させる。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンストセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取り組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>(6) 観点別評価が試行実施されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。</p> <p>(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図れるよう、効果的なカリキュラムやコース制のブラッシュアップを検討する。</p> <p>(9) 教育産業による学習動画の活用等、工夫を行うことにより学びに向かう意欲を高め、講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率80%以上。[74.3%] 「授業などでコンピューターやプロジェクターを活用している」肯定率90%維持[91.6%]</p> <p>(2) 大学出張授業を6回以上実施。 [感染症の関係で2回のみ] 英検受験者の50%が準2級以上、GSCの生徒は受験者20%以上が英検2級以上合格。[感染症の影響で予定していた一斉受験を中止]</p> <p>(3) 桜塾の生徒満足度70%以上 [70%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「アクティブラーニング型の授業を取り入れている」肯定率70%以上[63.8%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率85%維持。[84%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率85%。 [85.3%]</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率80%以上 [77.3%]</p> <p>(7) 図書室の利用者数3000名以上 [2600名]</p> <p>(8) 共通テストの自己採点において、専門コース生徒(英語・数学)の全国平均を超える得点。[英語+12、数学-7]</p> <p>(9) 5:30以降講習受講者の昨年度と同等数維持。[175名]</p>	

2 人間力をつける、規律、安全安心について	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。</p> <p>(3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。</p> <p>(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を促進する。</p> <p>(5) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的な生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身に着けるための取組みを組織的におこなう。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別や同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。</p> <p>(4) 国際交流活動による異世代・異文化との交流を通して、グローバルな視野を育成する。イベントや防災活動などでの相互連携を通して、地域に愛される学校をめざす。</p> <p>(5) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断 「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 70%以上。[72.3%] 「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80%以上。[78.5%] 年間遅刻数 1800 以下。[2,093]</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断 「担任の先生以外に相談することができる先生がいる。」肯定率65%以上。[54.7%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85%維持。[85.2%]</p> <p>(4) 年間 3 回以上の国際交流事業の実施。[コロナの影響で未実施]</p> <p>(5) 教職員向け学校教育自己診断 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90%以上。[86.9%]</p>	
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。</p>	<p>(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。)OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page の画面を見やすくするとともに、生徒による「部活動・自治会ブログ」の更新を推進し、学校の元気な様子を内外に発信する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている。」肯定率 70%以上[R2 は緊急事態により全て中止になったため教育自己診断を実施せず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 訪問やオンラインによる年 1 回以上の相互交流を実施。[2回]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断 「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90%以上[87.5%] 生徒による「部活動ブログ」を月平均 1 回以上更新。[新規事業]</p>	
4. グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断 「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率 85%以上[R2 は緊急事態により、ほとんどの事業が中止になったため診断できず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識 「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の項目、2 回の平均値 3.4 以上 [3.3]</p>	

<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。</p> <p>(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。</p> <p>(3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取組みを推進させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) 学習指導要領の改訂に伴う、教授法や評価法等様々な改革に対応するため、教科ごとの組織力を高めるとともに、教科を横断した「学校ベクトル」を基とした教科教育を推進する。</p> <p>(3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。</p> <p>(4) 首席を軸に SPT の取組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。</p> <p>(5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。</p> <p>(6) 部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化を推進し、時間外勤務削減をはかる。</p>	<p>(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 65%以上。[58%]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 75%以上。[70.2%]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 75%以上。[74.5%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 75%以上。[72.9%]</p> <p>(5) 教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 70%維持。[70.9%]</p> <p>(6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[1名] ストレスチェックの全校平均値 105 以下。[107]</p>	
-----------------------------------	---	--	---	--